

# 300号を迎えた

広報

# ふじがお宅に

◇広報紙は、市民と市政のパイプ役。

「広報ふじ」が300号になりました。

創刊号が発行されたのは、昭和41年

11月25日。2市1町が合併し、「新

富士市」としてスタートした直後で

した。……………◇



市役所8階の広報広聴課。このデスクから広報紙が生まれます。

## 親しみある

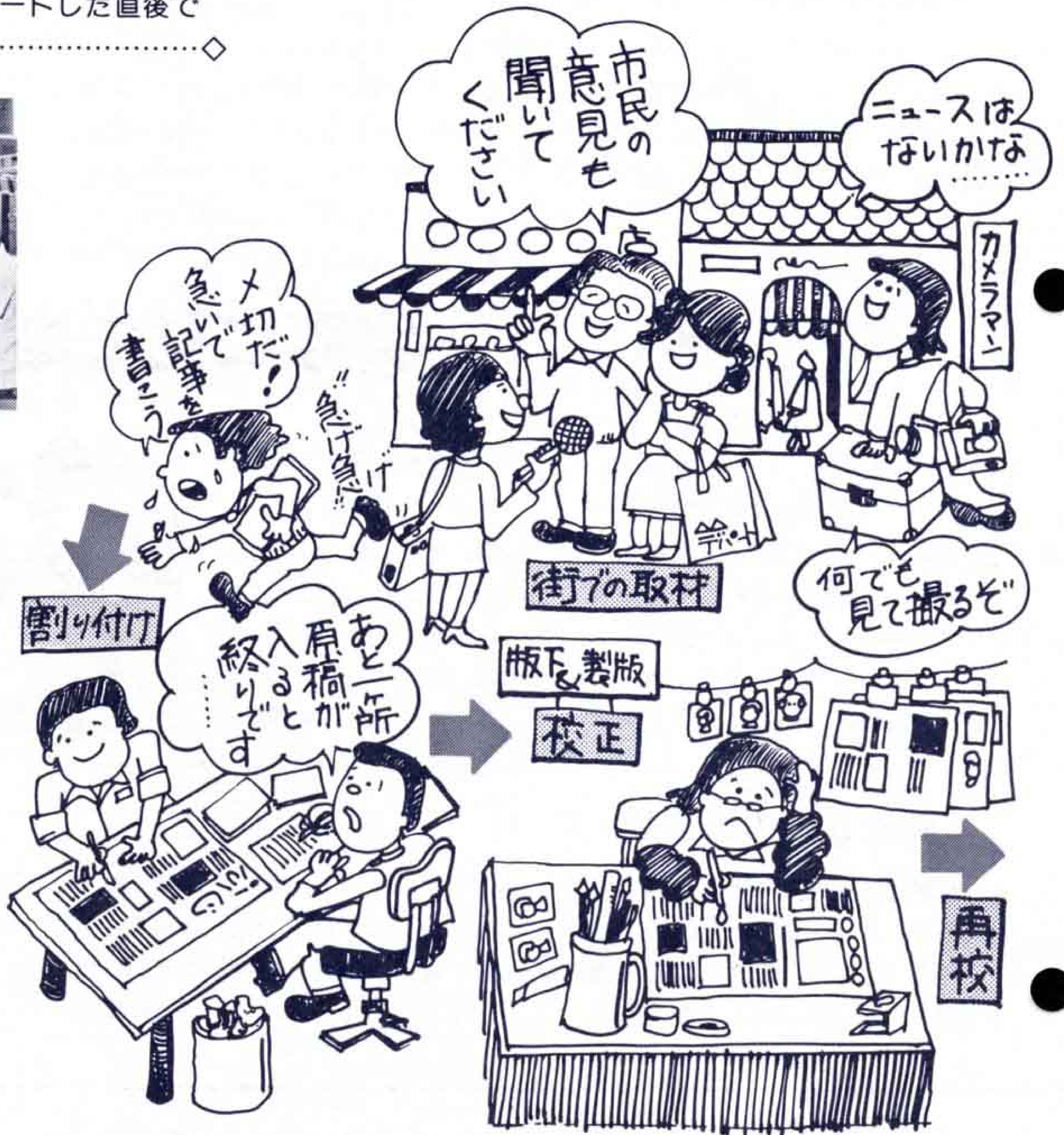
## 広報紙を

富士市のめざす「市民本位の住みよいまちづくり」に広報紙をもっと役立てたい。

そのために、できるだけ多くの市民に登場願ひ、親しみのある紙面をねらいとして編集をしています。

市民のみなさんのご意見を、もっとお寄せください。みんなで作る広報紙は、みんなで作る良いまちづくりに、きっと、つながっていくだろうな……。

こんな願いをこめて、これからも「広報ふじ」をお届けします。



## 広報紙に私もひとこと



中里みちるさん  
丘小6年

ちょっとむずかしいので、あまり読んではいません。でも、ふるさとの昔話はよく読みます。この間の「死がいが消える」はおもしろかったワ。できたら子供向きの広報紙を子供の日にも発行してほしいです。



竹山 久さん  
(23歳)  
広見町

世帯をまだ持ってないので、実のところたまにしか読まないんだけど。でも、他の人の意見や投書なんかは興味を持って読んでます。若い人の様子やナウなことを、もっと載せてほしいと思います。



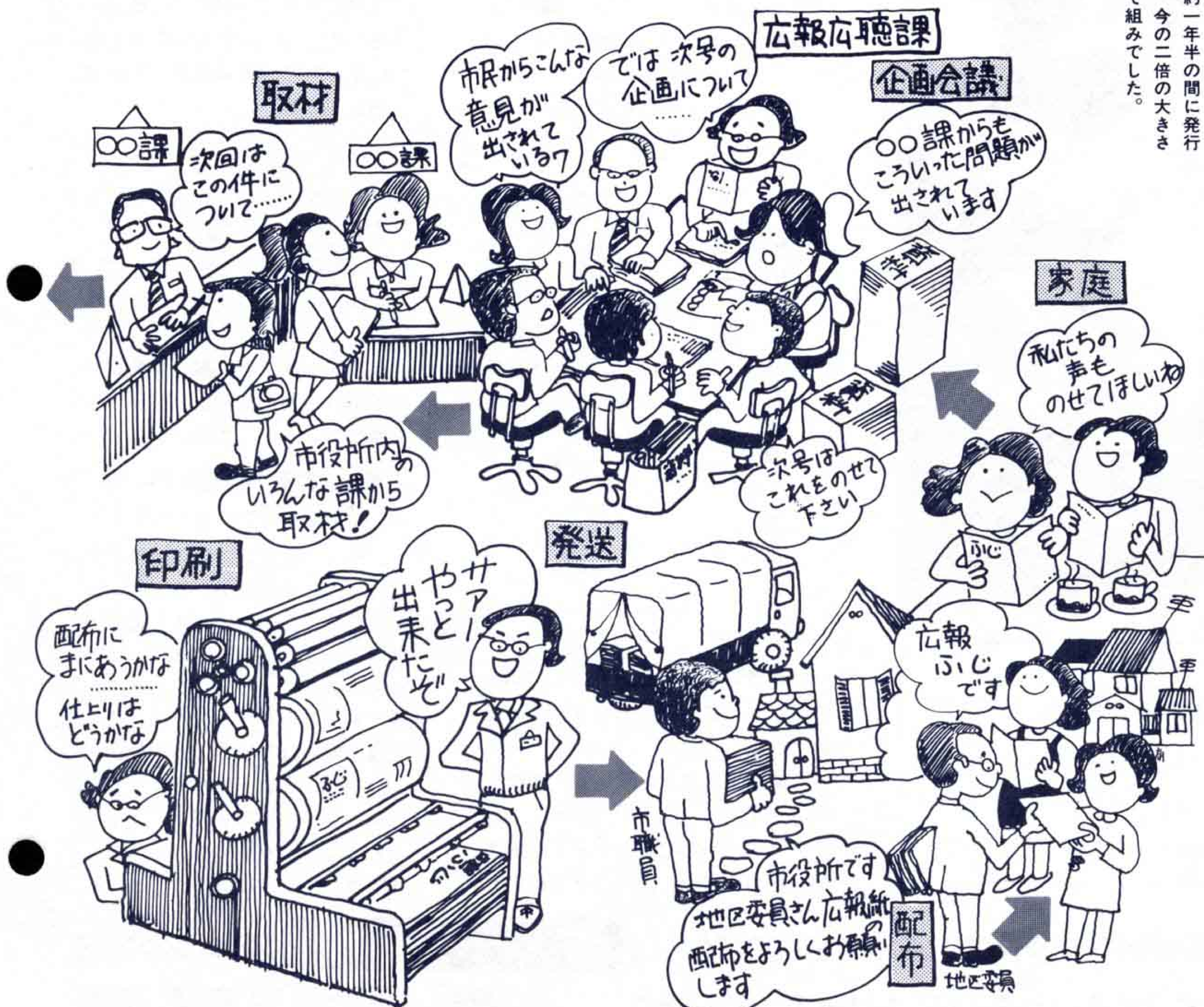
原 静子さん  
(36歳)  
駿河台

主婦としては、やはりお知らせをよく見ます。そういえば近頃見やすくなって来たけど、編集にもうひとくふうあったらなおいいわね。私たちの町内は、配布が早いのでとてもありがたいと思っています。

# 届けられるまで



広報ふじの創刊号  
創刊号から26号までの約一年半の間に発行された「広報ふじ」は、今の二倍の大きさで、ごらんのようにたて組みでした。



## 広報紙に私もひとこと



田村高義さん  
(48歳)  
厚原東

以前に比べ、市民の声が紙面に多く登場してきて大変よいと思う。しかし、読まれる広報ふじにするためには、市民との接点をもっと拡げる必要があるね。例えば「声のひろば」の延長のような欄を……。



秋山きみ江さん  
(53歳)  
大野町

この間の粉石けんの話は、一般新聞より詳しくてよく分かったよ。ふるさとの昔話もいいねエ。孫が大きくなったら聞かせてやろうと思って、よく読んでいますよ。これからも楽しみにしているからね。



杉沢忠一さん  
(58歳)  
国久

私は、区の役員をやっているので、「暮らしのたより」はよく目を通すようにしています。市民にとって身近な問題を、もっとも取り上げればきっと、広報紙が待ち遠しくなると思うよ。